

令和 3 年 月 日

木更津市長 渡辺 芳邦 様

木更津市中心市街地活性化協議会
会長 北野 幸樹

木更津市中心市街地活性化基本計画の令和 2 年度取組等に対する意見（案）

木更津市中心市街地活性化基本計画の令和 2 年度取組等に対する当協議会の意見は下記のとおりです。

記

令和 2 年度は、令和 2 年 3 月に認定を受けた中心市街地活性化基本計画の 5 年間の計画期間の初年度であったが、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の催行が中止・延期を余儀なくされる中、1 年目の取り組みとしては、概ね順調に進捗していると思われる。

目標指標を見ると、「みなとまちの新たな拠点づくりと回遊性の向上」（休日歩行者通行量）では、目標値を上回る増加となっており、JR 木更津駅への駅ピアノ設置などの拠点づくりを推進していることから、今後も基本計画事業の着実な実施と、各種事業が連携した一体的な取り組みが期待される。

「住環境の向上による街なか居住の推進」（中心市街地内の人口の社会増減）では、令和 2 年において中心市街地内に分譲マンション 2 棟が竣工したため、前年に比べ 235 人の社会増となったが、基本計画策定時の見込みと比べると想定を下回る増加となっている。今後は、居住環境整備のためのマンション建設等とあわせ、空き家等の既存ストックの活用を進めることが求められる。

「新規出店・起業の促進」（新規出店数）については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために外出制限等がなされ、全国的に飲食店等の閉店が相次ぐ状況であったが、基本計画事業の活用によって 5 件の新規出店あり、目標値（年間 5 件、5 年で 25 件）に達する結果となった。参考指標としている公設地方卸売市場取扱高については、目標値を下回る結果となっているが、各事業の取り組み内容を調査・分析し、対策を講じることによって目標が達成されるよう、より一層の商業活性化を図りたい。

昨今、社会的な不安要素が尽きず、将来の展望を見通しづらい情勢となっているが、官民連携をさらに深め、商業者や地元住民等の意見を取り入れ、また、多様なプロジェクトが相互に関係し合い、協同・協働して取り組むことによって、まちへの愛着が育まれ持続可能なまちづくりがなされるよう、協議会としても尽力して参りたい。